

女税連新会長に市原氏

京都で定期総会を開催

全国女性税理士連盟（奥田よし子会長）は8日、ホテルオークラ京都で、第69回定期総会を開催した。

来賓には、大阪国税局税理士監理官の森健治氏、京都府知事の西脇隆俊氏、京都市長の松井孝治氏、日本税理士会連合会会長の太田



直樹氏、韓国女性税務士会会長のクァクチャ

ンミ氏、近畿税理士会会長の石原健次氏はじめ各単位税理士会の会長らが招かれた。

冒頭、奥田会長が会長就任後の2年間で振り返りあいさつ。議事では、令和7年度事業

報告・決算報告、8年度の事業計画・収支予算案など、すべての議案を承認した。

役員改選では、近畿税理士会明石支部の市原幸恵氏が新会長に選出された。市原新会長はあいさつの中で、支部長経験や新型コロナウイルス禍での活動などについて触れ、同連盟の強み

として柔軟な対応力と潜在能力を強調し、「会員の支援を得て職務に全力を尽くす」と抱負を述べ、今後の活動方針として来年の70周年記念事業の実施等を挙げた。写真。

なお、総会に先立ち、第57回研究報告として、西日本支部大阪ブロックが「少子高齢社会における税制を考える」世代をつなぐ公平な税制を求めて」をテーマに2年間の研究成果を発表。指導教官は税理士の八ツ尾順一氏と金井恵美子氏が務めた。

税 の し る べ

令和8年(2026年)8月24日 (4)